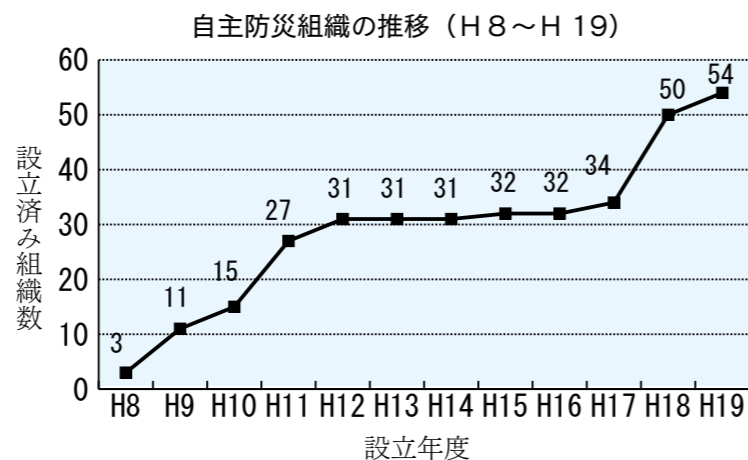


○滑川市では54組織が活動しています

市では、町内会を単位とした自主防災組織の設立を推進しています。

これまで、56の町内会で54の組織が設立（本年8月1日現在）されており、防災訓練をはじめ、能登半島地震などではお年寄りの安否確認を行うなど、活発な自主防災活動が各地で実施されています。



○自主防災活動を応援します

市では、訓練講師の派遣や訓練資機材等の貸出し・提供、活動に関する相談のほか、活動費用の補助を通して、住民の皆さんによる自主防災活動を応援しています。

自主防災組織の設立その他自主防災活動についてのご相談・お問合せは、市総務課までお気軽にどうぞ

避難施設変更のお知らせ

災害時の避難施設に指定されている市の施設の新設や廃止に伴い、次の施設が変更となりました。

- 【新たに指定した施設】
滑川市民交流プラザ（吾妻町426番地）
- 【指定を廃止した施設】
滑川市老人福祉センター（上小泉442番地）

○いざというときに備え、家族や自主防災組織・町内会で、避難場所や避難方法を確認しておきましょう。

災害情報配信サービスに登録を！

気象警報などの防災関連情報や市内で発生した火災情報を24時間、メールでお届けしています。

ご希望の場合は、市のホームページ、若しくは右のQRコードから携帯版ホームページにアクセスして、配信登録をしてください。



防災パネル展を開催しています

防災に関する豆知識をはじめ、能登半島地震や中越沖地震の被害の様子などを紹介するパネル展を開催しています。

- とき 9月9日(日)まで
- ところ 市民交流プラザ1階交流サロン
- 内容 気象・防災知識を紹介するパネル展示
地震被災地の状況写真の展示
非常時持ち出し品の展示
など

コミュニティ助成で地域安心安全ステーションの資機材を整備

滑川西地区安全なまちづくり推進センターは、(財)自治総合センターの宝くじ普及広報事業の助成を受けて、防災資機材を整備しました。

同センターは、総務省消防庁の地域安心安全ステーション整備モデル地区に指定され、地域の自主防災活動を推進しています。



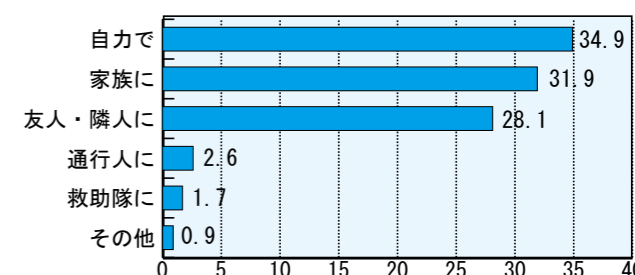
9月1日は「防災の日」

～いざというとき、頼りになるのは誰ですか？～

このグラフは、平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災において、生き埋めや閉じ込められた人が誰に救助されたかを表したグラフです。

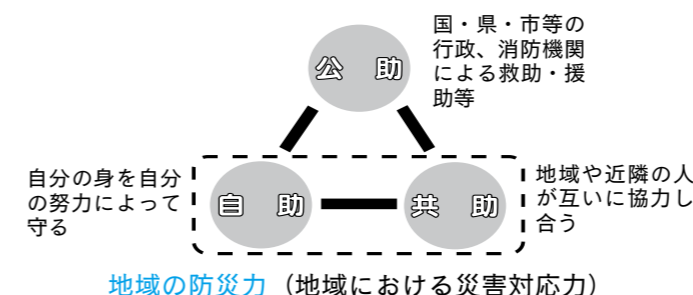
このグラフでは、家族や近所の住民によって救出された割合が60%を超えていることが示されており、災害時においては、家族や地域といった身近な範囲での助け合いが求められることがわかります。

○生き埋めや閉じ込められた際の救助率（%）



資料：(社)日本火災学会「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」

○防災・減災の担い手は…？



大きな災害が同時に広い範囲で発生した場合、その規模が大きければ大きいほど、市や消防といった公的な救援（＝公助）に時間がかかることは、近時の災害を見ても明らかです。

初期消火や被災者の救出・救護など、一刻を争う場面において最も頼りになるのは、“自分の身を自分の努力によって守ること（＝自助）”、そして“地域や近隣の住

民どうしが協力し合って対応すること（＝共助）”と言えます。災害時はもちろん、普段からの防災・減災に向けた取り組みには、こうした自助・共助・公助の繋がりが大切であり、特に、自助・共助が主体となる“身近な地域における災害への対応力（＝地域の防災力）”の向上が求められています。

○自主防災組織をつくろう

こうした地域の防災力の向上のための活動において、その中核としての役割を担うのが、自主防災組織です。

自主防災組織は、「自分たちの地域は自分たちで守る」を合言葉に、地域の皆さんの連帯感に基づいて結成される組織です。普段は、住民の防災意識の高揚や防災知識の習熟を図る役割を、また災害時には、自主防災組織の活動を通じた住民どうしの助け合い・支えあいの役割を担うことが期待されます。

○日常の活動

- ①防災知識の普及・啓発
- ②身近な地域の災害危険の把握
- ③防災訓練の実施
- ④防災資機材等の備蓄及び管理
など

○災害時の活動

- ①災害関連情報の収集・伝達
- ②出火防止、初期消火
- ③救出・救護
- ④避難誘導、避難
- ⑤炊き出し
など